銅板画の表現

田中　茂

　退職後、美術創作活動に興味を持ち、美術館巡りやいろいろな本を読んだりする中で、版画家の浜口陽三氏の《さくらんぼ》と出会いました。

　浜口氏の解説で「漆黒のビロードのような風合いを持つが、間近で見ると小さな点が寄り集まって色面を構成し、単調な黒一色でない。」等の記述があり、感銘を受けました。

　私は銅版画が油彩画と違う表現方法に、興味を抱き版画教室に通い始めました。

銅版画は、主に鋭利な道具で直接銅板を彫る「直接法」のエングレーヴィング、ドライポイント、メゾチント等と、銅が酸に溶ける腐蝕反応から薬品を使用してくぼみを版に作る「間接法」のエッチング、ソフトグランドエッチング、アクアチント等があります。

　作品 1 は、東大寺の仁王像です。

山門の左右で睨みをきかせる、左側（西側）の「阿形」像は、口を開いた怒りの表情、右側（東側）の「吽形」像は、口を結んで怒りを、内に秘めた像が特徴です。

この銅版画はメゾチント技法で制作しました。

この技法が、闇から光を照らしだす明暗を表現するものだからです。

メゾチント技法は、銅板表面全体にベルソー＊1 を直接垂直に当てて、縦、横、斜めに揺り動かして無数の目立てという細かいくぼみとまくれをつけます。作画は、目立てしたまくれをスクレーパー＊2 で削り取り、バニッシャー＊3 で滑らかに磨き、下図から光を浮かび上がらせます。

　ベルソーで作成したくぼみとまくれの部分は、たくさんのインクが紙に刷り取られ、ビロードのような深い質感を持つ黒い面となります。

　バニッシャーで磨いた部分は、インクが拭き取られ、微妙な中間の調子をもつ白い部分として、浮かび上がり、黒い部分は目立ての細かさや深さによって、白い部分は削り取る加減で、様々な濃淡が創られます。

　黒画面に白い線を抜き出して闇の中の光、陰影と輝きなどハイライトを創り出します。

　この技法は、深い闇のような黒面がビロードの黒ともいわれ、マニエール・ノワール「黒の技法」とも呼ばれます。

【作品１　仁王像　銅版画　メゾチント】

２作目は、不動明王・矜羯羅童子（こんがらどうじ）・制吒迦童子（せいたかどうじ）三尊立像です。

不動明王は大日如来が諸種の障害を除き、魔を滅ばすため忿怒の姿をしたものです。

羂索（けんざく）＊6 をとる左手を、利剣（りけん）＊7 を握る右手と同じ高さに上げた逞しく若々しい上半身、玉眼の両眼をかっと見開き、眉毛をつり上げた眼光が鋭い像です。

不動明王の悪に立ち向かう姿は、人々を守る法力を感じさせます。

右側の清浄無垢な愛らしい矜羯羅童子は、慈悲の化身「恭敬小心の者」とされる通りのあどけない顔立ちです。

左側の制吒迦童子は手に宝棒を持ち、眉間にしわを寄せ、口をへの字にした「共に語り難き悪性の者」とされ激しく体を捻じって威嚇しています。

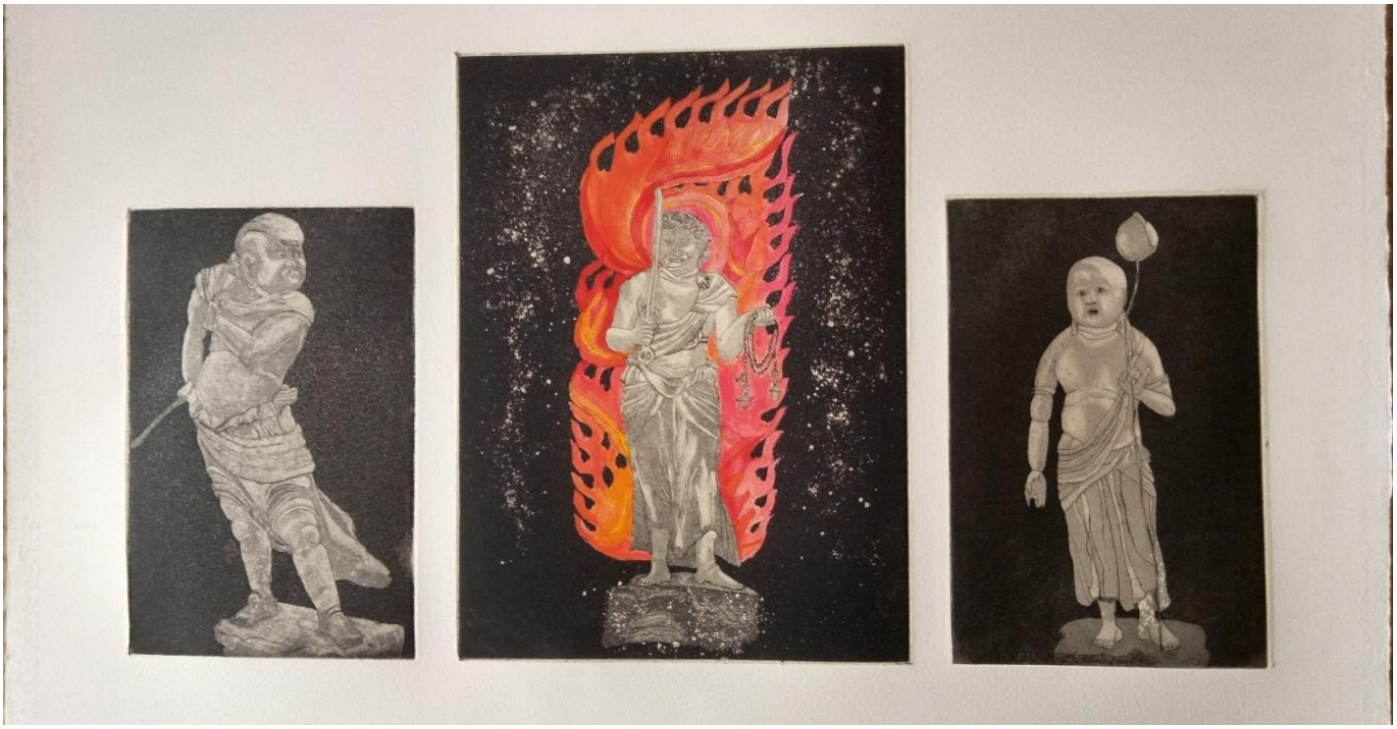
この作品は、エッチングの基本的な腐蝕法のアクアチント技法で完成させました。

アクアチント技法は、作品の背景を黒くしたり、面の部分に明暗の調子をつけ、明暗のグラデーションを表現します。

エッチングは銅板をニードル＊4 で刻む「線の表現」、アクアチントは「面の表現」で、エッチングなどと他の技法と併用される技法です。

防蝕には松ヤニを使用します、磨いた銅板に松ヤニの粉を撒き、加熱して松ヤニを銅板に付着させます。グランド＊5 など防蝕剤を塗ってから腐蝕液に浸すと銅板を腐蝕し、松ヤニの粒子の粗さや散布する密度や腐蝕時間によって、作品に色の濃さや質感の調子の違いがでます。

この方法で刷ると、白でも黒でもない灰色あるいはハーフトーンを作成することが出来ます。



【作品２　不動明王・矜羯羅童子・制吒迦童子三尊立像　銅版画　　アクアチント】

　版画制作は、版板にトレースし、ニードルや酸の腐蝕で明暗を描画し、版板にインクを詰め、水分を含んだ用紙を版板に合わせ、プレス機で刷られた作品を確認するまでの緊張感とイメージした構図と刷り上がった作品を見比べ、思い通りに表現されない難しさがあります。

私の作品構想は、仏像彫刻です。

　若い頃、余暇に美術館や神社仏閣巡りをしました。

訪れた寺院の多くは、平安時代の寝殿造、室町時代の数寄屋造と時代を継承しており、仏像彫刻は、巨大な伽藍空間の僅かな自然光の中で、静寂に佇み陰影が時の流れを伝えてます。

　私にとって題材とする仏像は、繊細な線と面での陰影をトレースし、版板に描画、彫りこみの制作時間は、無心になり心を癒すひと時が得られることです。

仏像作成された時代背景とその特徴を知るためにインターネット検索や書籍で調べることが目下、日々の楽しみの１つとなっています。

[注釈]

＊1 ベルソー：先端に細かい櫛目状の刃を持つ鑿(のみ)のような道具、メゾチントの原版をつくります。仏語で「ゆりかご」のことです。

＊2 スクレーパー：版を削る刃、断面が三角形または三稜の形から、三稜刀(さんりょうとう)と呼ばれます。

＊3 バニッシャー：トーンの調整や版の修正の用途に使用される鋼鉄製の棒状の道具。版を磨き、修正、中間の調子をつくります。

＊4 ニードル：鉄筆。銅板の表面に描線を刻みます。

＊5 グランド：腐蝕凹版の制作に版板の防蝕剤として用いる耐酸性の物質です。

＊6羂索(けんさく)：不動明王が左手に持つ縄。私たちが邪な煩悩に惑わされ悪い方向へ向かいそうな時、その身を縛り上げても、

正しい道へと導く役割を担っています。

＊7利剣(りけん)：三鈷(さんこ)剣(けん)、倶(く)利(り)伽羅(から)剣(けん)とも呼ばれ、不動明王が右手に持つ剣です。

◆その力は仏教で根本的な煩悩とされる「貪（とん）」「瞋（しん）」「癡（ち）」の三毒（さんどく）を打ち破るといわれています。

不動の利剣は、あらゆる災厄、障難を切りはらい、持つ人を力強く守る降魔の剣です。不動明王の持物であり、力の源泉、かつ象徴です。

以上